

「日本3百名山ひと筆書き」の田中陽希さんが
登頂し記念撮影(同)

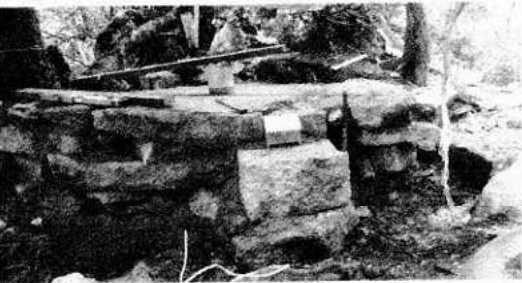


レバーブロックで仏像を持ち上げる新宮山彦ぐるーぷ
=22日、奈良県下北山村(提供写真)

大日如来座像守る 新宮山彦ぐるーぷ 転倒防ぐ修理終え安置

昨年秋の台風21号の影響で倒れたとみられる奈良県下北山村・大日岳山頂(1568m)の仏像「大日如来座像」を守ろうと、転倒を防ぐ修理を進めていたボランティア団体「新宮山彦ぐるーぷ」(川島功世話人代表)は22日、5月からの作業を終え仏像を元の場所に安置した。

大日如来座像(高さ約2.4・重量約100キ)は、明治生まれの強力岡田雅行(1886)が山頂まで運んだといわれている。昨年この仏像が倒れていると連絡を受けた川島代表らは、ロープで固定するなどの処置を施していたが、台座下の石組みが不安定であったことや仏像の宝冠の折損と右手首の亀裂もあったため今回の修理に踏み切った。5月20日から延べ80人が日数



数日かけて資材を運び完成した石組みの基礎(同)

8日をかけて資材を運び、15日に台座下の石組み基礎が完成。この日は川島代表と仏像の損傷を修復した児嶋道夫さんら13人が、猛暑の中作業に当たった。無事安置された仏像の台座内には、関係者の息災長久と大峯修験道の鎮護を願う由緒併願文、大日如来修復参加者、協賛者名簿が納められた。

新宮山彦ぐるーぷは1984年から荒れていた南奥駈道の刈り開きを始め、重機が運び込めない山道で山小屋の整備なども民間の力でやり遂げた。「紀伊半島の霊場と参詣道」の世界遺産登録でこの整備した道が組み込まれ、2004年の「シチズン・オブ・ザ・イヤール」に選ばれた。15年秋にはグループの玉岡憲明相談役が緑綬褒章を受章している。(泉 真子)